

---

# -永久物語-

†ユウ†

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

- 永久物語 -

### 【Nコード】

N8817X

### 【作者名】

十ユウ十

### 【あらすじ】

完全一次小説ですm(´`´´´)m  
ファイル等と旅に出てみませんか？

## 我が子超伝説

永久物語……………

我が子伝説解禁…

主人公 龍族の小さな少年フェイル

偉大なる龍族の少年レイヴィル

大魔王神と成り果てたネクスス

墮天上女神かつ天空の勇者ユレン

他 様々なキャラが織り成す

永久？に紡がれる物語である

BLちつくな部分あります

ちなみに

フェイル×ネクススくらい

まあ手繋いだりとかくらい

てかまだ自分の中のBLはあります…

出していいか悩み事です…にゃーWWW

物語としては1話完結で

ユルユル行きたいと思えます

人物紹介は後ほど…  
キャラがかなり居るので  
簡単にしか書きません^^;;  
詳しい紹介が見たい場合  
個別にコメント頂けましたら  
載せていきます

ゆっくり更新です  
暇つぶしくらいには  
なるかと思えます

もしかしたら  
見たことがある方も居るかもですが  
こちらは完全 一次しかありません

十ユウ十

## 第1話 偉大なる龍族の双子

僕達は龍族…

僕達は偉大なる龍族

龍族の末裔なんだ

でも 僕は龍になれないんだ  
何でだろう？

なにかの罪なのだろうか？

だけど弟は龍になれる  
きつと両親も龍になれる

でも僕は龍になれないんだ

理由は何か考えた…でも分からない  
僕には分からない…だって難しいから  
だって……分からないよ

僕には力が足りないの？弱い？ダメ？

今思えば僕は焦っていたのかもしれない

「兄さんどうしたんだ兄さん…」

「レイヴィル………?」

レイヴィルと呼ばれた赤髪の少年  
起き上がるのは

兄さんと呼ばれた茶髪の少年

ちなみに茶髪の少年の名はフェイル

「かなり魔されていた…よ…

冷や汗もかいている…

どうしたんだ……兄さん」

レイヴィルはフェイルを抱き締める

見た感じレイヴィルが兄に見える

理由は簡単なのだ

フェイルはとも小さい背が低いのだが

弟のレイヴィルはかなり高い

軽々とフェイルを腕に収め

レイヴィルは抱き締める

「苦しいよレイヴィル…」

苦笑しながらフェイルも

レイヴィルの背に手を回す

本当に双子なのか…

戸惑うほどに似ていない

兄フェイルは身長が低く

見た目も顔付きも体格も

華奢で女の子らしい

弟レイヴィルは背は異常な程高く

見た目も顔付きも体格も  
男らしくしつかりしている

髪の色も目の色も違う

フェイルは茶髪に銀目

レイヴィルは赤髪に金目

2人は疑うほどに違うのだ  
そして……………

「兄さん………… 1人で悩むなよ  
僕が居るだろ…？」

父さんも母さんも居ない今  
僕にとっては兄さんだけが  
僕の唯一の存在なんだ」

「僕だつてレイヴィルが大切だよ  
もちろん僕の唯一の存在だよ」

弟レイヴィルは言うまでもなく  
かなりのブラコンである  
フェイルは少々ブラコンだが  
べつたりするほどではない  
本当に大切に思つて居る  
いつも側に居たいと感じている

でも急にそんな日々が無くなつたら？

次の日レイヴィルの姿は

家の中に無かった  
魔力の痕跡だけが  
ただただ転々と残っていただけ

「レイヴイル…？」

フェイルは呼び掛ける  
レイヴイルの魔力の反応も  
その気配も無いことを  
フェイルは知っている  
知っているけど希望を無くしたくなかった

「あはは……おつかしーな…  
何でだる僕お兄ちゃんなのに…  
何で………こんなの無いよー!!」

レイヴイルが残した  
ペンダントを手に握り締め  
フェイルは力無く座り込む  
何時間経ったのだろうか…  
フェイルは動けないままで居る…

「フェイル!!!無事か!!!」

フェイルがハツとしたのは  
1つの声が響いたからだ

「ネクスス…」

フェイルは無意識に呟く

泣きながら見上げた先には  
金髪の背の高い少年  
名をネクススと言う

「よく聞け……お前は…助かったんだ…  
ジライクスの作り上げた  
この一族の集落には  
既に人が1人も居ない…！  
お前だけが助かったんだ！」

「何………？訳が分からないよ…  
僕が生き残り…？僕達の一族が無い…？  
何があつたの！？ジライクスって！  
なんでレイヴィルは居ないの！？」

フェイルが混乱しながら聞く  
ネクススは1つ息を吐き出し  
フェイルをジッと見つめる

「よく聞けよ………  
お前はダークライシスと  
クローク一族の生き残りだ…  
誰が襲つたかは分からない  
ただレイヴィルは生きている…  
ジライクスも生きている…  
他の者は分からないが…  
気配はまだある…」

「つまり………僕は1人…」

フェイルは現実を聞いては  
瞳から光を失っていく…  
ネクサスはフェイルの肩を掴み  
軽く揺すっては見据える

「大丈夫だ…お前は1人じゃない…  
オレが居てやるから…そばに…」

「う…う…う…ネクサス…ネクサス  
僕は1人はイヤだよ…もうイヤだよ…」

「もうあの時のように…  
お前を1人にはしねえよ…」

ネクサスと言う  
フェイルは子供みたく泣きじゃくっては  
ネクサスにしがみつく  
軽くて華奢なフェイルを  
ネクサスは優しく抱き止める  
見た感じはまさしく  
年齢の離れた兄弟のよう…  
だが実はこの2人幼なじみの親友なのだ

「あり……がと…う…  
ありがとう……ネクサス」

「礼なんか要らねーよ…  
お前だけでも生きていてよかった  
オレは素直にそう思う」

この後フェイルが泣きつかれて  
眠りに付くまで

ネクサスは側に居てやる……

ネクサスが異変に気づいたのは

フェイルが眠りに付いてから

ものの一時間後ぐらい

大勢の何かに囲まれている

ネクサスは小さくぼやき

フェイルをベッドに乗せては

1人で行こうとするが

はしっ！！とフェイルに手を掴まれる

「……………僕……………も行く……………」

嫌な予感がするんだ……………この気配……………」

ネクサスはフェイルの目を見やる

覚悟を決めた力強い目だ

「……………来い……………」

ネクサスはそれだけ呟き

立ち上がったては部屋を出る

龍の双子が引き裂かれた……………」

片翼の龍は……………飛べるのか……………」

## 第2話 残酷な運命

「来い……………」

ネクサスが呟きフェイルは付いていくでもそれが現実を突き付けられるそんな事態になるとは…この時フェイルは思っても居なかった

「やはりな」

ネクサスはピタリ止まり目の前の人物を睨み付ける

「やあネクサス兄さん…」

「ネアス……………」

「そんな……………!!」

フェイルがネアスに近付こうとしネクサスはフェイルを制止する

「今の彼奴”はオレ等の知るネアスじゃない……………気を許すな…戦いになったら殺す気でいけ…」

「流石兄さんだよ……………」  
「実の弟であつても気は許さない…  
それに戦いになつたら殺す気ねえ」

ネクサスがネアスの言葉に歯軋りする  
言いたい事 伝えたい事  
皆 噛むように消して  
ネクサスはネアスを睨む

「我が弟よ……………いや……………」ネアス……………」

「なんだい……………兄さん？」

「その……………腕は……………なんだ……………」

ネアスが明るみに出た直後  
ネクサスの表情は固まる  
ネアスの見た目はネクサスとほぼ同じだ  
金髪に鋭い目つき…  
唯一違うと言うならば  
瞳の色くらい……………服装……………」

ネクサスは透き通るくらい綺麗な  
青く煌めく綺麗な瞳だ…  
ネアスは違う……………どんな薔薇よりも  
血の流れより透き通る……………赤だ

だが今はもっと違う……………」

ネアスの片腕は…人間のモノではない  
異形の怪物の………兎に角  
この世に存在し得ない……腕だ  
包帯が巻かれ……血に塗れ…  
先からは刃物のようなモノがはえている  
一枚の鋭い刃………

「ネアス!!!!!!」

「ネアス!?!」

「ああ……この腕かい？」

「この腕はねえ…オレの…自慢の腕だよ」

「な……!?!?!」

「フェイルに切れ味見せてあげるよ!

兄さんの身体を引き裂いてねえ!」

ネクサスはネアスの言葉に混乱しては  
ネアスを睨み付け空間から…アスラル…  
アストラルセイバーを出現させる

「ネクサス……あの子は…一体」

「オレの弟ネアスだ………」

「……あの子がネアス君…  
ネクサス…気を付けるんだ  
……後ろに誰か付いている」

「構わねー……行くぞアスラル！  
フェイル！！お前はサポートを！」

「もちろん！！」

「分かったよ！全力補佐に回る！  
気を付けてネクサス！！！」

ネクサスがネアスに突っ込む  
またネアスもネクサスに突っ込む  
フェイルがすかさずネクサスに  
防御上昇魔法と攻撃上昇魔法を放つ

ネクサスが優位に立つ戦い……  
フェイルもまた勝利を確信する……  
だが……戦況は傾く

ネアスの腕の一振りが  
ネクサスの血を…ネアスの血を  
浴びる毎に強くなっているのだ

「兄さん！！兄さんの強さは  
こんな物なのか?!?!?  
オレが憧れた兄さんの力は  
たったコレだけだったのか!?!」

「ぐ……お前…一体…一体何が!!」

「力が溢れるんだ!!!!!!」

力が！！！！兄さん！兄さんには  
一生分からないだろうな！！  
”あのお方”に共に作られたけど…  
兄さんは何不自由なく気ままに生き…  
オレは力だけを求められ…！！  
身勝手に捨てられた！」

「……………ツ…ネアス…！！！！  
それは違う！」あのお方”は  
お前の為に……………！！」

ネクサスが言った瞬間  
ネアスから光の力……………  
いや……………光のような闇の力が溢れる

「え……………え……………なん……………」

ネアス自身も自分の力に  
動揺を隠しきれないのか  
自分の溢れる力を操作しきれず  
暴走しかかる……………

ネクサスがネアスに手を伸ばすが  
それも遅く……………  
ネアスの姿はまるで別人のように…  
なり果てていた……………

紫を貴重とした仮面に…  
青いジャケツトのような物に  
肩当てが付き首には

金色に輝く宝玉が付いている…

左手は青く鋭い獣爪みたくなり

右腕の刃は刃数を増やし

赤く怪しく光る……………

髪型こそ…ネアスの名残はあるが…

殺害を楽しむように

見える口元は笑みを浮かべ

鋭い刃と爪が鈍く光る

あからさまに…………ネアスではない…

「ネクサス…気を付けるんだ

今のネアス君は…………危険過ぎる！」

「は…………？一体何が起きたんだよ！」

「ネアス君に取り巻く闇…

ネアス君自身が持たない

深い闇が…………元有る光の力を

狂わせて…………本来存在しない姿に…………！」

「そんなあ…！」

ねえっアスラル！どうにかならないの」

「…………僕のカじゃ……………そうだフェイル

…アーティを呼んでくれるかい」

アストラルセイバーが輝き

剣は人の形に成り果てる

「今呼ぶよ……………」

フェイルもネクサスと同じように  
空間から剣ではなく扇……  
アーティクトファンを呼び出す

「久しぶりアーティ!!」

「あつ!久しぶりフェイル!  
あたしを呼んだのは…………アスラルね」

「ああ…アーティ…………ネアス君を…」

「なるほどね……………」

ネクサス…フェイル時間稼ぎなさい  
あたし達で力を強制封印するから!

アスラルとアーティは  
互いに魔法陣を描きながら  
フェイルとネクサスに言う

「頼んだぞ!」

「頑張るよ!!」

2人は勢い良くソード武器を持てば  
ネアスの注意を自分達に引く  
でもそれが悲劇だった…

ネアスが腕を振り下ろす……

「え　　？」

フェイルがハツとする……

ネクサスが目を疑う……

振り下ろされた先にはフェイルが居た

ザシヤアアアアツ　！！！！！！

切り裂く音と飛び散るのは赤……赤　赤　赤

地面や周りにあるもの……

頬や服……生暖かい物が……

ベツタリと付着する……

倒れて居たのは……フェイルじゃない

……ネクサスだった……

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8817x/>

---

-永久物語-

2011年10月26日08時08分発行